

希望納期に対応 シボ加工のエキスパート集団

納期相談
企画力自信有
コスト相談
メイドイン
ジャパン
試作可
小ロット



平成30年10月に新設備を導入

業務内容 表面処理加工で 手触りや機能性アップ

金属製品や樹脂の金型表面に凹凸をつけ模様を施すシボ加工を行う会社。シボ加工とはプラスチック皿に施された木目加工のように、外観の高級感や手触りの良さが得られる表面加工のひとつ。滑り止めや耐久性を上げるなどの効果もあり、プラスチック箸の先端やスチールカメラの表面などへのシボ加工も同社の得意分野だ。薬品による化学反応で金属を腐蝕させて凹凸をつけるエッチングと、その後工程である砂を打ち付けて表面の艶出しを行うサンドブラスト、加熱や溶剤を使わず特殊な処理剤を吹き付けて表面処理を行うイエプロなどといった加工を行う。

強み 短納期や再加加工など "お客様重視"の技術力

金型製造の最終工程であるシボ加工は、「納期まで時間がない」という状況が多いにもかかわらず、「ゆっくり丁寧に行う加工」という業界常識があり、矛盾を抱えている。しかし、同社では「顧客重視」を追求し、工程ごとに作業調整を行うことによる納期短縮や、顧客のイメージと異なる場合の再加工請負に対応している。また、短い時間で金属表面処理が可能なイエプロ処理設備を導入することにより、短納期だけでなく離形性の良好な金型も可能にしている。加工を施す職人もシボ加工業界で数十年の経験を積んだエキスパート集団であり、サンプルに合わせて他社のシボでも再現できる。

設備増設 新設備の導入で ばらつきなく品質向上

業務が軌道に乗り始め、創業当時の工場



デジタル技術によるシボ加工



綿密な打ち合わせで短納期を実現

今後の展望 介護用品や海外展開など 新規需要も視野に入れる

高齢化社会を見越して介護用品などへの展開を見込む。滑り止め加工などを施すことで取り込める需要は大きく、将来的には海外進出も視野に入れている。

金型のつなぎ目をわからないように仕上げる加工が難しいことから、海外では日本ほどシボ加工の技術が発達していない。同社には、海外工場で作られた金型にシボ加工を施して海外の成形工場へ送った実績もあり、澤井洋二社長は「今は日本だけで忙しい部分もあるが、自分たちの技術力を上げていくことで仕事が確保できる」と、海外需要の可能性も見出している。

当社の歴史



「お客様の要望に応えたい」という思いが一致したメンバーで創業しました。会社としてはまだ若いですが、シボ加工業界で数十年の経験があるベテランが当社の技術力を支えています。一方で、入社したばかりの若い従業員はデジタル技術の扱いに慣れており、新たな体制が整い始めました。

代表取締役 澤井 洋二さん

<http://r-and-m.co.jp/>

主な事業内容

プラスチック製品などの金型表面へのシボ加工

主な取引先(納入先)

家電、自動車、オーラルケア、プラスチック容器の各メーカー

- 住 所 〒574-0062 大東市 氷野3-12-48
- TEL 072-814-7935
- FAX 072-814-7936
- 創業 平成27年2月
- 設立 平成27年2月
- 資本金 500万円
- 従業員 9名